

小説には作家の来し方が深く
滲みでる。

「babe1 (バベル)」4

(大阪府八尾市木の本2の23
2・森中方) 井上豊萌「小春日
和」。晩秋から冬の余韻が残る
幻想的な3連作掌編小説だ。

「ウサギと手袋」。私は美術
館併設カフェの雇われマダム。

誕生日の朝、幼馴染みで妻を早
くに亡くした館長から夕食に誘
われる。昼すぎ、赤い革手袋の
片方を探しに来た青いコートの
男の声が、元彼に似ていて心が
揺れる。紅葉に染まる中庭の野
兎の彫刻は私には駆け出しそ
うに見えた。閉館後、私は館長
に承諾メールを送る。〈アイス
モナカ〉。ママは僕を連れて再
婚。そのママが義妹を妊娠、少
し嫉妬する。サッカーの試合の
帰り、黄葉の銀杏並木で花束を
持った青いコートのおじさんに

冬之余韻残る連作掌編

同人誌

出遭う。頭には落ち葉が1枚。
僕はコンビ二で買ったアイスモ
ナカの半分を彼に差し出す。携
帯が鳴り義妹が生まれたのを知
る。〈もみの木〉。甲斐性な
しの俺だが彼女との結婚の外堀
は埋められている。クリスマス
ツリーを探しに行った園芸店
で、偶然、出遭った子連れの母
親や、会社の同期の女子からの
電話など、強い女性に励まされ、
大きいもみの木を買うことにす
る。同誌の真銅孝「眠り」。小
学生向け塾を営む男性と塾生、
二つの視点で進む物語が妙。

「茶話歴談」3 (大阪府枚方
市香里園山之手町13の29・澤田
方) 真言「天狗斬りの乙女」。
時代は戦国。柳生新陰流・柳生
宗庵の弟子明音は、姉を陵辱
し殺した辰巳兄弟の仇討ちを期
し、宗庵の岩をも断つ「天狗斬
り」を会得しようと修行。だが
宗庵は、明音が柳生の里人とな
って平穩に暮らすことを望み、
戦わずして勝つ「活人剣」しか
教えなかった。そんな明音に邪
法の剣を教えたのは、かつて宗
庵が仕えた松永久秀。それは黒
死病(ペスト)と梅毒に冒され
た明音の身体を辰巳兄弟にささ
げる捨て身の戦法だった。一時、
神戸の滝山城に拠った久秀も登
場する、スリルあふれる時代小
説だ。

「播火」107 (姫路市香寺
町香呂371の1・大塚方) 田
中忠敬「いちご名手抄(一)大
地からの贈り物」。加東市のブ
ランドいちごを題材に、土作り
から始まる無加温土耕栽培の秘
訣など農民作家しか描けない素
朴で味のある佳編だ。

(野元 正・作家)

◇野元さんによる同人誌評は
今回で終わります。